



vol.38

企画・編集: (株)ASO



ロボット、スタート!



コンピューターって、おもしろいよ!

プログラミング教室



年長から始めるプログラミング!
自分たちで工夫してつくった
ロボットが動きます...



お届けミッション
始めま〜す!



5月からスタートした「プログラミング教室」。
センサーを付けたロボットも自分たちで作りました♪

しっかりと聞くことが大切。
先生のお話をよく聞いてから行動します。

ロボットの動きを撮影し、画面を見ながら
確認します。



子どもたちはみんな天才!! ゲーム感覚で習得します。



お友達と一緒に体験レッスン!! 興味と関心を育てる「プログラミング教室」♪ ロボット制作や実験も自分たちで!



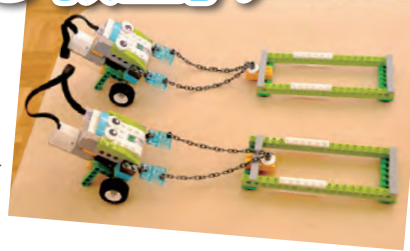
テーブルがセッティングされたホールをのぞいてみると、体操服姿の年長さんが、4人ずつ8グループでスタンバイしています。

「後進」など、ロボットを動かす年

慈照幼稚園では、プログラミングの楽しさにこの時期からふれてほしいと、年長さん向けに、プログラミングを学ぶ教室を週1時間取り入れています。学ぶといっても、レゴブロックを使って、ロボットを組み立てたり動かしたりを、楽しく体験。ゲーム感覚だから、この時間がみんな大好きです♪ 好奇心旺盛のこの時期の子どもたちの興味や関心を引き出しています。

最初はキョトンとしているお友達もいましたが、お友達のやることを見ながらすぐにマスターしていました。吸収力抜群のこの時期、興味のあることはスポンジのように、頭の中にスーッと入っていくんですね。タブレットを操作しながら「直進」

センサーを付けたロボットカー



今では日常生活や仕事でパソコンやネットが欠かせない存在になりました。慈照幼稚園は将来を見据え、保育の中に「プログラミング教室」を取り入れています。ここでどんなことをしているのか、その内容と子どもたちの様子に密着しました。

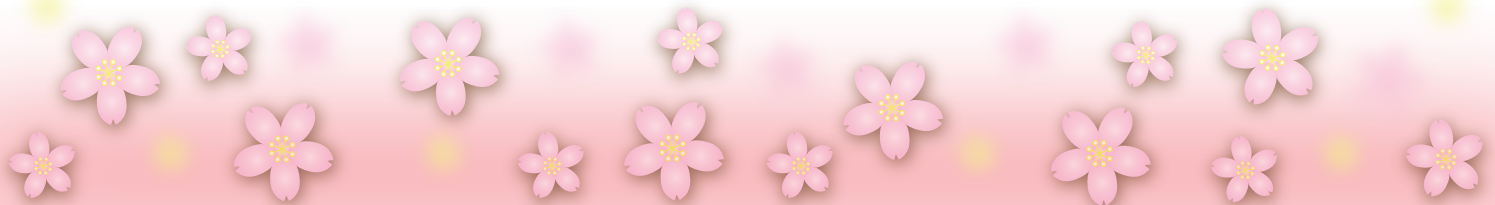
取材・文 渡辺里佳

「ゲーム感覚で体験する プログラミング教室」

子どもは作って
動かすのが大好き♪

生まれた時からパソコンやスマートフォンに慣れ親しんでいる今の子どもたち。これからの教育にもITの学習が必須となり、小学校でも、先々「プログラミング」の授業が取り入れられることが決まっています。

教えるのは、下田義範先生。「今日は、みんなが作ったロボットを動かして記録をします。二人一組になったら一人がカメラマンさんになってください。お友達のロボットの動きを記録してくださいね」。先生の話を真剣な表情で聞いています。





主役は子どもたち。先生がさりげなくサポートします。お友達同士で話し合い、コミュニケーションを取りながら



直進させてゴール前で止まるようにプログラミング。



ビデオを見ながら感想を発表。みんなの前で話す経験も。



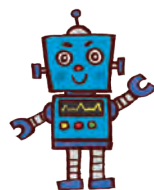
4人グループ、2人でペアになって行動。



自分で作った「クルマ」や「花」「ヒコウキ」をロボットに載せて運びます。「お届けミッションを始めます!」「受け取りました、ありがとうございます!」



幼稚園の年長さんが全員揃って体験できる「プログラミング教室」は、全国的に見ても珍しいケースです。大勢の先生が揃っているから、一人ひとりの子どもたちに目をかけながらサポートできるのも慈照



サポート体制
慈照だからできる
「プログラミング教室」でたくさん
のことを吸収した慈照の子ども
たち。これからの日本を背負って
活躍する頼もしい大人が、慈
照幼稚園からたくさん誕生し
そうですね!

長さんの姿はカッコイイ! カメラマンは、その様子をタブレットのカメラで上手に撮影していました。大人から見ると、とても難しそうですが、見て触るだけで感覚的にぱっと理解するのが子どものすごいところ。集中して取り組む表情は真剣そのもの。自分の頭で考えている様子が伝わってきました。

子どもたちは作って動かすのが大好き! 自分で考えて作ったロボットが思い通りに動く達成感やおもしろさを味わっています。



幼稚園の強みです。やり方がわからなくて困っているお友だちがいたら、近くの先生がすぐにアドバイスすることができます。主役は子どもたち、先生は手をかけすぎずに見守りながら、子ども自身が持つ力を引き出します。

小学生以降につなげるための興味と関心を育てます。

日常の中にひそむ危険をチェック！

知って防ごう、子どもの誤飲・誤嚥事故

転んだ、ぶつけた、口に入れた……などなど、小さな子どもとの暮らしは「ドキッ」「ヒヤッ」と縁が切れませんね。今回はどこの家庭でも起こる可能性のある「子どもの誤飲・誤嚥」について、注意したいポイントをまとめました。

お話／西武文理大学 准教授 茂手木明美先生



誤飲 幼児期になってもひきつづき目配りを

「誤飲（ごいん）」とは、食べ物以外の異物を飲み込んでしまうこと。誤飲事故が最も多いのは、手でつかんだものをなんでも口に入れてしまう生後半年～1歳ごろですが、それを過ぎててもまだまだ油断は禁物です。

子どもがどんなものを誤飲しているかということ、タバコ、くすり（飲み薬、塗り薬）、洗剤類、化粧品、ボタン電池、コイン、小さなおもちゃ（ボール、ビー玉ほか）など、どれも一般家庭の中に普通にありものばかりです。

「わが家は危ないものはきちんとしまっておくから大丈夫」と思っても、子どもは日々成長しているのです。昨日は手が届かなかったところに手が届いたり、開けたりできるようになることもあります。マニキュアの除光液など化粧品の誤飲は、大人が使っているものに興味を持つ2～3歳ごろに多く発生しているという報告もあります。

赤ちゃん時代に比べると物ごとの分別がだいぶついてくる一方で、知的好奇心から大人が「まさか」と思うようなことをやってしまう（できてしまう）時期でもあるということを、常に意識しておきたいですね。



誤嚥 身近な食べ物が事故につながることも

本来は食道の方に入るはずの食べ物が誤って気管のほうに入ってしまうことを「誤嚥（ごえん）」といいます。子どもはまだ咀嚼がうまくできないので、口に入れた食べ物をかみ砕かずに飲み込んでしまうことがあります。飲み込んだ食べ物が、のどの高い位置（咽頭）や気管につまると、窒息、呼吸困難などの事態を引き起こすことがあります。

誤嚥しやすい食べ物の特徴としては、「丸くてつるんとしているもの」（白玉だんご、ミニトマト、ぶどう、アメ玉など）、「かみ砕きにくいもの」（ピーナッツ、豆類、グミ、こんにやくゼリーなど）があげられます。節分の豆やチョコレートの中に入っているアーモンドなどのナッツ類も要注意です。

意外なところでは、パンも誤嚥の危険があります。かまずにぱくつと丸のみしてしまい、流し込もうと水を飲んだら水分でパンが膨張して、さらに詰まってしまうという事故も起きています。誤嚥事故とは無縁に思える食べ物でも、食べ方によっては窒息などの深刻な事故を招くこともあるので、気をつけたいですね。

誤飲・誤嚥を防ぐ環境づくり

～禁止だけでなく子どもへの安全教育も大事

子どもの生活環境に危険がないかをチェックするのは大人の役目ですが、一方で子ども自身にも「何が危なくて、どういうことに気をつけなくてはいけないのか」ということを少しずつ学習していってもらう必要があります。

そのためには2～3歳になったら、ただ「ダメ」と禁止するだけではなく、「どうしてダメなのか」という理由説明を簡単な言葉で伝えましょう。たとえば薬に手を伸ばしてきたときは、「これは病気になったときだけ使うものだから、〇〇ちゃんには食べないのよ」というふうに真剣な表情と口調できちんと教えましょう（もちろん、一度で理解できるわけではないので、手の届かないところに保管することは大前提ですが）。

「座って食べる」「食べながらふざけない」「お箸を持って歩かない」などは、お行儀の面だけでなく、安全のためにもとても大事なことです。子どもが食事中にいすから離れてうろうろし始めたら、「歩きながら食べると危ないよ」と伝えて、「では、もうおしまいね」と食事を切り上げる。そんなふうにけじめをつけていくことが、子どもへの安全教育にもつながります。

取材・文／中島恵理子



家族みんなで確認！ 誤嚥・誤飲を防ぐわが家のルール

★誤飲の原因になるものは

子どもの手の届くところには絶対に置かない

- ・直径39mm以下の大きさのものは子どもが口に入れて飲み込む危険があります。
- ・特にタバコ、くすり、ボタン電池、小銭などは注意。

★「食べる時は席について」を習慣に

- ・歩きながら、遊びながら、寝転がりながら……「ながら」食べは危険です。

★食べているときに子どもを驚かさず、大笑いさせない

- ・びっくりすると人間はひゅっと息を吸い込みます。大笑いしたあとも同じです。

★食べ物を放り上げて食べさせない

- ・大人がやっているのを見て、小さな子がまねをすることもあるので気をつけて。

★車の中での飲食にも注意

- ・大きな揺れや急停車で誤嚥するおそれがあります。特にピーナッツやグミなどは与えないようにしましょう。

★万が一、誤飲等の事故が起こった場合の対応について、母子手帳などで確認しておきましょう。



茂手木 明美 Akemi Motegi

西武文理大学看護学部小児看護学准教授。医科学博士。山梨大学医学部大学院医学工学総合教育部博士課程終了。専門は小児保健、小児看護、保育学。「子どもの生活習慣と健康問題」「小児期の睡眠」「子どもの事故と安全」「子育て支援」などをテーマに教育・研究活動、研修会講師として活動している。

発行：(学)大乘学園 幼保連携型認定こども園

慈照幼稚園

〒379-2117 前橋市二之宮町1812-7

☎ 027-268-2557

<http://www.jisho.ed.jp/>